

平成28年の消防概要

中濃消防組合管内における平成28年中の火災、救急・救助及び通信・指令の概要は、次のとおりです。

火災件数は、39件で前年に比べ9件減少しています。

火災種別ごとにみると建物火災17件、林野火災3件、車両火災6件、その他の火災が13件発生しました。前年に比べ車両火災が4件増加し、建物火災が8件、林野火災が4件、その他の火災が1件減少しています。

損害額は、4,361千円で、前年に比べ233,973千円減少しました。

また、火災による死者、負傷者は中濃消防組合発足以来初めてありませんでした。

火災件数を月別にみると、3月に11件と最も多く、次いで2月に6件、1月に5件発生しました。本年は、春に空気が乾燥した状態が続き火災が多く発生しています。

出火原因では、「たき火」が8件、次いで「たばこ」が5件、「火遊び」が3件の順となっており、特に、過去においても「たき火」、「たばこ」は出火原因の上位を占めています。

救急出場件数は、4,192件で前年に比べ57件増加し、搬送人員も91人増加しました。

救急種別ごとにみると「急病」が最も多く全体の約61%を占めており、次いで「一般負傷」、「交通事故」となっています。傷病程度は軽症が約35%、入院が必要な中等症以上が約65%を占めています。搬送人員については、65歳以上が全体の約63%を占めており、中でも「急病」と「一般負傷」の割合が高くなっています。

救助出場件数は、62件で前年に比べ3件減少しましたが、救助人員は37人で前年に比べ17人増加しました。

事故種別ごとにみると、交通事故が36件と最も多く、半数以上を占めています。次いで多いのが水難事故の9件です。また、近年の登山・ロッククライミングブームから山岳での事故も増加傾向にあります。

119番受信件数は、5,677件で、このうち、火災・救急などの災害通報は3,893件でした。

119番受信件数のうち、携帯電話からの通報は2,055件で、前年に比べ134件増加しています。災害通報以外の通報は、同報、試験、訓練、番号間違い、応答なし等です。

緊急通報システム(一人暮らしの高齢者宅等に設置された非常通報装置)は、現在448台設置されています。通報は415件で、前年に比べ9件増加しました。このうち救急車の出場は30件で、前年に比べ4件増加しています。

救急医療情報システム(病院案内)は、1,072件の問い合わせがありました。特に小児科が572件と最も多く、次いで内科167件、整形外科88件、眼科72件の順となっています。

携帯電話によるメール119番通報(聴覚や音声に障がいのある人)は32名登録されていますが、緊急通報及びFAX119による通報はありませんでした。